

⑧

B

二〇二五年度

国

語

問題冊子（一～一〇ページ）

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験系統コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例（選択式の場合）〕

- 例一．〔語群〕が二桁で
- | | |
|----|-------|
| 11 | 大阪 |
| 13 | 長崎 |
| 12 | 佐賀 |
| 14 | 東京 |
| | とある場合 |

問 X	
16	17
/	2
18	19
/	4
20	21
/	/

Aの解答が佐賀の場合
Bの解答が東京の場合
Cの解答が大阪の場合

- 例二．〔語群〕が一桁で
- | | |
|---|-------|
| 1 | 大学 |
| 3 | 高校 |
| 2 | 中学校 |
| 4 | 小学校 |
| | とある場合 |

問 X	
51	a
/	
52	b
4	
53	c
2	

aの解答が大学の場合
bの解答が小学校の場合
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

嘉村礒多^{かむらいそた}は、純粋な私小説家として令名^{*}がある。それに違いない。では、嘉村は、その私小説の流れにおいて何を果たしたのか。私小説家の系譜において、どんな新しい^a一步を展開したのか。

私小説の発端は、田山花袋の『蒲団』である。私小説は、自分を描き、自分の生活を描く。花袋はやがてじきに私小説の難点と
いうか難局面に到達した。何が難点なのか。さいわい嘉村は花袋を先達者として尊重しているらしいので、花袋の言葉を引用する。

私の生活と家庭とが余りに平凡にすぎているのを感じた。単調と煩瑣^{はんさ}なソクバク^イとの中に、唯^{ただ}日が経って行くばかりであった。同じように、妻の顔は赤く、子供の群は悪戯^{いたずら}に、朝は汗、夜は酒にすぎて行くのだった。私には子供の死すらなかった。妻の死すらなかった。精神を動かして一路新生に入って行くような刺激は何もなかった。私は平凡と単調とを呪^{のろ}った。従って、島崎藤村君のフランス行きは、そういう意味から言っても羨ましかった。愛子を失い、夫人を失われたことは、悲痛な事実には相違ないが、一方そのために、そういう自由を得られるのは、むしろ私の平凡、単調より幸福であるとさえ思った。（田山花袋『東京の三十年』）

嘉村は、こういう私小説の難点に、早くから正面^ロシアウトツしていたようだ。いくら正宗白鳥が、「我と我皮を剥^はぐ」小説を書くとした花袋を例に「彼ら自然主義作家は、苦痛を凌^{しの}いで、ああいう作品を製作し発表した。それは、日本の文学史にも世界の文学史にも例のないことであつた」「当時の自然主義者には、それら固有のものと異なつた一種特別の苦痛があつたのだ。いかに自己の生存苦^ハをナイセイ^ハし、いかにそれを発表すべきかが、自然主義者間に鬱陶しく漂つていたのである。『私小説』などと名づけて、今日まで自己

A の作品は文壇に跡を絶たないのであるが」（『自然主義文学盛衰史』）などといっても、平凡人の平凡な生活を有りのままに描くことを主題とする私小説では、そこで営まれている生の奥へと入っていくためには、生存苦の真に達^cするためには、自分の生を裂くような一つの発条^{*}を必要とするのである。

私小説家田山花袋は、ドラマめいた発条が、自分の
クした。これが私小説の難点である。

B

かつ平凡な生活の中には、見出せないことに苦しんだ。コンワ

ところが、嘉村礒多は、易々とそこを乗り越えたのである。母子の間の不思議な呪詛、処女願望、自分の生の出場所の拒否、生活の革命——こういう、最初から原形的にドラマを内在させるものとして、主人公の生を設計したのである。これは私小説の新しい一歩であった。だから、嘉村の小説、主人公の生の行程を描く一つ一つの作品は、絶えずこの生の設計の原点へと戻り、そこから再出発するのである。

だから、嘉村の私小説は、主人公が現に生きている日々の具体的な細部よりも、現実の今日の日々と生の設計の原点とを繋ぐもの、その一本の糸筋、あるいは、その糸筋の上での往復運動——つまり、主人公の回想の場面が多くなるのである。

その生の設計と行動は、作者嘉村の生においても本当のことなのか、それとも、小説を書く必要上の設計、いわば拵え事なのかという問いがもう一度甦る。

半分は、嘉村の生においても本当のことであり、半分は、小説上に必要な設計であったという他はない。

なんでそんな厄介な小説の書き方をするのだ？

スタンダールなら、ジュリアン・ソレルという新しい人間——主人公を創造し

て、彼の新しい生の行程を描く、そういうのが小説の本道であるという反問があろう。

しかし、それは違う。反問にならない。作者の抱く自己というものの意味がまるで違うからである。生活の場におけるスタンダールの自己は、すでに確立されたものである。これに反して、嘉村の自己は、何だか本人にもハンゼン^本としないものであり、形成の途上にあり、一步一步その生の行程を作品に書いて確かめなければ、形もなく消えてしまうものなのである。

同じことが、私小説家としての系譜上、先輩に当たる葛西善蔵にも言える。葛西の自己は、すでに生活の中で確立された実質のある自己であるが、嘉村の自己は、絶えず、これは自分のことなのかと疑いつつ探求されるところのものなのだ。だから、生動的な実質などを持つてはいない。嘉村の主人公は、しばしば、自分は無内容なのではないか、と疑っている。

自己という、生の基本点が異なる。そのように、私小説のスタイルが異なる。そこに、嘉村の生の独得さがあり、小説上の独

創的なスタイルがあった。

その独創的スタイルは、けつきよく人間^eの何を表現しているのか。

主人公は、一作品ごとに実に執拗^{しつよう}に、自分の生の設計の原点——原形へと戻ってゆく。日々の今日の現実と生の原点との間の、**C**を繰り返す。だから、回想が小説上の主役である。

この回想の特徴は、日々の現実の中では鋭く拒否し嫌厭^{けんえん}したもの、それが逆に親愛の流露へと変ずるということである。その作品群でも分かるように、日々の現実の中では鋭く拒否され嫌厭されたもの、「前妻」や「息子」が、いわば遠い存在になり、七年十年の時間が経^たってしまうと、こんどは逆に親愛の対象になるのである。

——いったい、これはどういうところの波長なのか。

嘉村の作品では、わずか一編の短編の内部でも、たとえば「息子」、出生時には殺してもよいと思ったのに、七年十年後の今日では、いとしく感じているというような親愛感が接木^{つぎき}される。読者は戸惑う。そこへと至る主人公の感情の変化が描かれていなければ、それは小説上、一種矛盾撞着^{どうちゃく}した記述になるのではないかと。「息子」だけではない。「父」や「前妻」や「故郷(生の出生場所)」についても、同じである。

ところが、嘉村の場合は、それが矛盾撞着ではないのである。一本の棒の両端のように、主人公はいかなる疑問もなく、自然なものとして受け入れている。

——これは、どういうところの波長か。つまり、無限循環の波長なのである。

だから、作品群の出発の最初から、最後まで、同じ所をぐるぐる回る。

もっとイメージ的にいえば、これは、**D**を巻いているような、こころの状態を表現しているのである。こころの本来の姿は、矛盾もなく、正と反もなく、表裏もなく、**D**を巻いているようなものだ、と私は思う。

では、このこころの中心にあるもの、無限循環の回転の中心にあるものは何か。

——そこで、時間というものが消えてしまうのだ。

と私は思う。それが、ころというものの本質である、と。こんなことを私は合理的に説明することはできない。しかし、私は直感的に、嘉村の作品群が、そんなころというものの自然な姿を、表現しているのだと言いたかった。

これが嘉村の私小説の独得の価値であった。

——秋山駿「私小説のころの波長」による——

* 令名……………名声。よい評判。

* * 発条……………ばね。転じて、きつかけとなるもの。

* * * スタンダール……………フランスの小説家で、ジュリアン・ソレルは代表作『赤と黒』の主人公。

問一 傍線部 a「新しい一步」とは具体的にどのようなことか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 最初から普通でない劇的な設定の中で主人公を描いたこと
- 2 一人称の私小説ながら、経験に根差さない生活を書いたこと
- 3 主人公が実質のある自己を獲得するまでの成長過程を活写したこと
- 4 自己の生存苦から逃れるため、遊蕩ゆうとうにふける主人公を造形したこと
- 5 花袋以上に徹底して日々の具体的な細部をあるがままに描写したこと

問二 傍線部 b「私小説は、自分を描き、自分の生活を描く」について。私小説を書くとは、具体的にどのような生活をどのように描くことか。それを述べた最も適当な箇所を本文中から二十字で抜き出して、最初と最後の各四字を記せ(句読点を含まない。以下同様)。

問三 空白部 Aを埋めるのに最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 1 暗示 | 2 解決 | 3 規制 | 4 決定 | 5 告白 |
|------|------|------|------|------|

問四 傍線部 c「自分の生を裂くような一つの発条」の具体例を田山花袋は『東京の三十年』の中で二つ示している。それはどのようなことか、『東京の三十年』の引用文中からそれぞれ抜き出して、三字と四字で記せ。

問五 空白部 B を埋めるのに最も適当なものを『東京の三十年』の引用文中から抜き出して、漢字二字で記せ。

問六 傍線部 d「なんでそんな厄介な小説の書き方をするのだ」について。嘉村がこのような書き方をした理由として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 私小説の難点が解決できず、迂遠^{うえん}な自己の書き方しか残っていなかったため

2 私小説が成熟した結果、先駆者の田山花袋らと異なる自己を描く必要があったため

3 嘉村の抱く自己は確立されたものでなく、生活の中で実質を伴っていなかったため

4 自分が何者であるのか自分でも捉えられず、自己が跡形もなく消えてしまったため

5 嘉村は、その自己が葛西善蔵の自己に見劣りがすると劣等感にさいなまれていたため

問七 傍線部 e「人間の何を表現しているのか」について。嘉村の小説が最終的に表現しているものは何か。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 宗教に救済を求める心の姿

2 肉親の誰とも合わない心の波長

3 どこにも見出せない心の居場所

4 時間の流れにしばらくられない心の本質

5 子殺し願望など、罪業に捕らわれた心の闇

問八 空白部 C を埋めるのに最も適当なものをこの空白部より前の本文中から抜き出して、漢字四字で記せ。

問九 傍線部f「日々の現実の中では鋭く拒否し嫌厭したもの、それが逆に親愛の流露へと変ずる」ことを嘉村はどのように捉えているか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 何ら矛盾を感じることなく、ごく自然な心のあり方として許容している。
- 2 親愛の情も心中だけで、前妻らを眼前にすると嫌悪の対象として拒否している。
- 3 自己の生存苦に原因する、自身にも理解できない感情のあり様として甘受している。
- 4 自己の確立していない自身には好悪の感情を律することができないとして諦めている。
- 5 自己は無内容なものであると考えているため、矛盾も仕方ないとして受け入れている。

問十 空白部Dを埋めるのに最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 く　　だ
- 2 し　　お
- 3 し　　た
- 4 と　　ごろ
- 5 ぜん　　まい

問十一 本文の内容に合致するものを次の選択肢の中から二つ選び、その番号を記せ。

- 1 田山花袋は、小説の素材にできる刺激的な出来事が自身の生活に起こらないことに苦しんだ。
- 2 嘉村は、田山花袋の私小説を私的に過ぎると批判して、搾え事を中心にして自らの生活を描いた。
- 3 葛西善蔵の自己は、西洋文学を通じて身に付けたもので、生活の中で確立され、実質を伴ったものである。
- 4 嘉村の小説は、主人公の生の設計の原点が特異で、繰り返し現在からそこに立ち戻るため、回想の場面が多い。
- 5 嘉村の小説には一見すると矛盾したような記述が多く、読者を戸惑わせるが、それは嘉村特有の読者サービスの結果である。

6 嘉村の小説において自身は無内容なものでないかと主人公が疑い続けるのは、嘉村と実母との間に横たわる歪んだ関係に原因がある。

問十二 嘉村と出身地が同じで、詩集「山羊の歌」を発表したのは誰か。その人物を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 立原道造
- 2 中原中也
- 3 三好達治
- 4 種田山頭火
- 5 萩原朔太郎

問十三 傍線部イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕

次の文章は、木曾義仲の上洛じょうらくに伴い、平家一門とともに西国に落ちた平維盛（清盛の孫、重盛の子）のその後を描いた一節で、「A」は一の谷の合戦後、讃岐国の八島を抜け出した場面、「B」はかつて重盛に仕えていて、今は高野山で修行をしている滝口入道に出会った場面である。読んで後の設問に答えよ。

〔A〕 小松の三位中将維盛卿は、身がらは八島にありながら、心は都へ通はれけり。故郷に留めおき給ひし北の方、幼き人々の面影のみ、身に立ち添ひて、忘るる暇もなかりければ、「あるに甲斐なき我身かな」とて、元暦元年三月十五日の暁、忍びつつ八島の館をまぎれ出でて、与三兵衛重景、石童丸と云ふ童、船に心得たればとて武里と申す舎人^a、これら三人を召し具して阿波国結城の浦より小船に乗り、鳴戸浦を漕ぎ通り、紀伊路へ赴き給ひけり。和歌・吹上・玉津島の明神・日前・国懸の御前を過ぎて紀伊の湊^{みなと}にこそ着き給へ。「これより山づたひに都へ上つて、恋しき人々を A とは思へども、本三位中将の生取にせられて大路を渡され、京・鎌倉、恥をさらすだに口惜しきに、この身さへ捕らはれて、父の屍^{かばね}に血をあやさむことも心憂し」とて、千たび心は進めども、心に心をからかひて、高野の御山に参^cられけり。

〔B〕 三位中将、これに尋ね逢ひて見給へば、都に候ひし時は布衣に立烏帽子、衣文をつくるひ、鬢^{びん}をなで、花やかなりし男なり。出家の後は今日はいじめて見給ふに、いまだ三十にもならぬが、老僧姿に痩せ衰へ、濃き墨染に同じ袈裟、思ひ入れたる道心者、羨ましくや思はれけむ。

滝口入道、三位中将を見 B て、「こはうつつとも覚え候はぬものかな。八島よりこれまでは何として逃れさせ給ひて候ふやらむ」と申しければ、三位中将宣ひけるは、「さればこそ、人並みに都を出でて、西国へ落ち下りたりしかども、故郷に留めおきし幼き者どもの恋しさ、いつ忘るべしとも覚えねば、その物思ふけしきの言はぬにしろくや見えけむ、大臣殿も二位殿も、この人は池の大納言のやうに二心ありなどと思ひへだて給ひしかば、あるに甲斐なき我身かなと、いとし心も留まらず、あくがれ出でて、これまでは逃れたるなり。いかにもして山づたひに都へ上つて、恋しき者どもを今一度見もし見えばやとは思へども、本三位中将のこと口惜しければ、それも叶はず^g。同じくはこれにて出家して、火の中水の底へ

も入らばやと思ふなり。ただし熊野へ参らむと思ふ宿願あり」と宣へば、「夢まぼろしの世の中はともかくても候ひなむ。」

 長き世の闇こそ心憂かるべう候へ」とぞ申しける。やがて滝口入道を先達にて堂塔巡礼して奥院へ参り給ふ。

問四 傍線部 c「参られ」を説明したものとして適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 高野山に対する敬意を表す尊敬の動詞に、維盛に対する敬意を表す尊敬の助動詞が接続したもの
- 2 高野山に対する敬意を表す謙譲の動詞に、維盛に対する敬意を表す尊敬の助動詞が接続したもの
- 3 維盛に対する敬意を表す尊敬の動詞に、それへの敬意を更に高めるため尊敬の助動詞が接続したもの
- 4 高野山に対する敬意を表す謙譲の動詞に、それへの敬意を更に高めるため尊敬の助動詞が接続したもの
- 5 高野山に対する敬意を表す謙譲の動詞に、高野山がその動作を受けるとい受身の助動詞が接続したもの

問五 空白部 B には、「らる」「奏す」「奉る」「侍り」「させ給ふ」のいずれかが入る。これらの中から最も適当なものを一つ選び、適当な活用形に改めて四字以内で記せ。

問六 傍線部 d「逃れさせ給ひて候ふやらむ」の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 お逃げになりましたのでしょうか
- 2 きつと逃れさせ申し上げましょう
- 3 逃げなさって参上されるのでしょうか
- 4 逃げきりなさることができましようか
- 5 逃れて来られたので、お仕えしましょう

問七 傍線部 e「しるくや見えけむ」を十五字以内で現代語訳せよ。

問八 傍線部 i「思ひへだて」・口「あくがれ出でて」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---------|-------|------|------|-----|----------|----------|----------|---------|---------|
| イ | | | | | 口 | | | | |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| よそよそしくし | 恋い焦がれ | 思い込み | 思い疑い | 軽蔑し | 夜明け前に出発し | 心確かに出家して | 上の空のまま出て | 素早く出奔して | こっそりと出て |

問九 傍線部 f「恋しき者ども」とは、誰と誰か。文章「A」の本文中からそれぞれ抜き出して、四字以内で記せ。

問十 傍線部 g「叶はず」とは、どのようなことが原因となって何ができないのか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 都に残した家族に会いたくてたまらないので、高野山でも出家ができない
- 2 源氏の落ち武者狩りがどこでも厳しいため、これ以上逃げ回ることができない
- 3 重衡のように生き恥をさらすのが無念なので、捕まる恐れのある上洛ができない
- 4 源氏に捕らえられるのが恐ろしいので、源氏が支配する都に行くことができない
- 5 黙って抜け出して宗盛や時子に合わせる顔がないので、八島に帰ることができない

問十一 傍線部 h「なむ」と文法的に同じものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 一人当千と聞こゆる平家の侍どもと軍^{いくさ}して死なむとこそ思ひつれども、この御気色ではそれもしんなし。
- 2 入道、内府に仲たがうては悪しかりなむと思はれけむ、法皇迎へ参らせんずる事もはや思ひとどまり、
- 3 火桶などを抱きてもかならず出でゐてなむ見られはべる。お前たちもかならずさ覚すゆゑはべらむかし。
- 4 呼び出だして見ていとらうたがりけり。「いまゐていなむ。車寄せばふと乗れよ」とうち笑ひて出でられぬ。
- 5 鳥辺山たにに煙の燃え立たば、はかなく見えし我と知らなむと言ひ知らずをかしげにめでたく書き給へるを見て、